

園内展示（看板：うず潮）

鳴門海峡の渦潮は、巨大で流れが強く、またさまざまに形が変化することで有名です。こうした渦潮が発生するのは、鳴門にしかない自然の潮流現象のおかげです。

渦潮はいくつかの特徴的なパターンを示します。渦対は、鳴門海峡の中央を南向きに流れる速い潮の流れの両側で、「2 つ対になった渦潮」が反対向きに渦を巻く現象です。湧昇渦は海底の複雑な地形の影響で発生する上向きの潮の流れによって海面が丸く大きく盛り上がり、「渦巻の花」のような現象で、海峡の最狭部の近くで発生します。最も壮観なのは、渦連（「連続する渦潮」）かもしれません。最大 7 つもの渦潮が同時に一列に発生し、すでに発生している渦潮が消える前に新たな渦潮が発生します（鳴門の渦潮は典型的には 1 つ 20 秒から 30 秒続きます）。

昔から、遠くの人々も浮世絵という木版画に描かれた鳴門の渦潮に魅了されてきました。渦潮を描いた木版画家には、歌川広重（1797–1858）などがいます。壮観な渦潮は 1 年中楽しめますが、最も強い渦を巻くのは春と秋です。大潮となる新月と満月の時に、特に強い渦が発生します。